

中国自然歩道大山滝

神話の神々の住む場所として古代から水音を響かせる大山滝は、大山で主要の滝だ。加勢蛇川で合流する天狗が峰と烏ヶ山山頂の源流が流れ込んでいる。幅 4 メートル、高さ 42 メートルの二段滝である。上段は 28 メートル、下段は 14 メートルの高さだ。それぞれの段の間は特に丈夫な火山岩の層から成り、滝による浸食に耐えている。

1934 年以前は、大山滝は三段滝だった。その年、日本史上最も破滅的な台風のひとつである室戸台風が発生し、激しい洪水でひとつの段が崩落し、現在のかたちとなった。

大山滝の足元には加勢蛇川が清涼な滝つぼを形成し、そこから地獄谷という険しい渓谷へと流れてゆく。大山寺と三徳山にある真言宗寺とを僧侶たちが定期的に旅していた遠く平安時代（794 年 - 1185 年）から、この場所は疲れた旅人たちを惹きつけてきた。

1990 年に大山滝は政府機関などにより日本の滝百選のひとつに指定された。現在ここは中国自然歩道の人気のハイキングコースで、一向平から 2 キロメートル程歩けば到達できる。